事　業　報　告　書

自 2014 年４月　１日
至 2015 年 3 月３１日

公益財団法人日本学生航空連盟

2014年度事業計画並びに事業報告書	
Ⅰ．基本方針 「青少年の心身の健全な発達と航空文化の発展に寄与する」と云う連盟の目的を達成するため、以下を基本方針として連盟の公益事業を進める。 １．グライダーの安全運航を最優先し、安全管理を徹底する中で、訓練飛行、競技会飛行の指導を行う。 ２．地区法人と連携し、地区運営委員会、学生委員会の強化を図り学生会員の増加を成功させる。 ３．グライダースポーツの認知度を高める普及啓蒙活動を展開する。	
Ⅱ．公益事業 **1．グライダースポーツの教育訓練とそのための安全な教育訓練システムの維持**	飛行実績 26,600回 詳細資料は 資料1
（1） 訓練所運営	
① 妻沼、木曽川、白川、久住各滑空場と福井空港の 5 ヶ所で訓練所を運営し、必要な保守を行う。	必要な保守を実施 詳細資料は 資料2
② 滑空場諸施設（宿舎、会議室、格納庫、滑走路等）の管理を地区法人へ業務委託する。	継続実施
③ 連盟が所有する共用機材（滑空機、曳航用ウィンチ、車両、重機等）の運用を地区法人へ業務委託する。	継続実施
（2） 訓練指導	
① 各訓練所の情報を集約し、安全・効率的な訓練指導を行う。	ヒヤリハット集を作成し配布、その他文書指導
② 教育管理部長を新規に登用する。	未登用（条件面で不調）
③ 地区の要請に応じ指導員（飛行、整備）を各地区へ派遣する。	新人戦、山岳滑翔大会、全国大会へ 3 名派遣
④ 操縦教育証明資格者、連盟認定指導員を育成・任命し、指導教官を増強する。	操縦教育証明 6 名
⑤ ソアリングに特化したアドバンストトレーニングを実施する（妻沼）	4月実施を計画
⑥ 操縦飛行経歴を保有し、飛行に空白期間がある指導員に復帰プログラムを提供する。	認定指導員 2 名実施
⑦ 訓練用共通シラバスを更新する。	新たな更新無

（3） 航空従事者指定養成施設の運営	
① 自家用操縦士を年間 30 名目標に育成する。また、CAB受験者等を別途 20 名育成する。	指定養成 46 名（153%） CAB 17 名
② 事務局がコース運営のため指導員、機材、技能審査などのスケジュール調整を実施する。	事務局で継続実施
③ 各校合宿時のコースと年間 4 回の専用合宿コースを設定する。	専用合宿希望者が少なく各校合宿時に実施
④ 利用手続き簡素化を一層進める。	継続実施
⑤ 学科・実技教官（４名）、技能審査委員（１名）の新規任用を進める。	教官プロセス中 7 名 新規任用無
⑥ 指定養成の期間、試験科目等について改訂を継続検討する。	2014 年 10 月改訂
⑦ 航空従事者指定養成施設関連規程の更新管理を実施する。	2014 年 10 月更新
⑧ 教官会議、担当者会議を実施する。	5 月、９月、１月実施
⑨ 指定養成テキストを更新する。	12 月、2 月、3 月更新
（4） 安全管理・教育	
① 安全情報(ヒヤリハット)を各滑空場から収集し、情報共有化体制を強化させる。	ヒヤリハット集を作成配布
② 「安全の日 5 月 17 日」を意識し、安全管理規程を周知する。	加盟校に周知
③ 安全管理指導を目的に安全管理会議を 12 月に開催する。	11 月開催
④ 安全飛行大会を妻沼滑空場で実施する。（9 月予定）	天候不順のため未実施
（5） 指導員等の認定	
① 認定指導員講習会を開催し認定指導員を認定する。	5 月、６月に実施新規 6 名認定 現認定指導員 120 名
② グライダーウィンチマンへの研修と技能確認、認定を行う。	新規 46 名認定
（6） 公共サービスの提供	
① 妻沼、久住滑空場において航空援助局（フライトサービス局）を運営する。	継続実施
② 国土交通省試験官の技量保持張訓練及び運輸安全委員会委員の体験飛行を受託可能範囲内で受託を検討する。	11 月、2015 年1月実施
③ 特定操縦技能審査を学生、指導員、社会人 OB/OG を対象に運用を行う。	大学別で実施
④ その他滑空場施設等の利用希望に対して柔軟に対応する。	継続対応

2. グライダー競技会の主催及び共催、後援	
（1）主催競技会の日程を決定する。	山岳滑翔大会日程検討
（2）久住山岳滑翔大会開催並びに安全祈願祭を 4/5 月に実施する。	5 月開催・実施
（3）全日本学生グライダー新人競技大会を 10 月に開催する。	10 月開催
（4）全日本学生グライダー競技選手権大会を 3 月に開催する。	2015 年3月開催
（以上朝日新聞社と共催）	
（5） 各地区競技会（全国大会予選）を開催する。（後援：朝日新聞社）	10 月～12月で開催
（6） その他競技会、対抗戦等を後援する。	
① 原田覚一郎杯大学対抗グライダー競技大会	後援
② 東京六大学対抗グライダー競技会	後援
③ その他加盟大学競技会、対抗戦	大野ローズカップ他７競技会を後援
（7） 学生が参加できる海外競技会・スクール情報を引き続き収集する。	継続収集
3. 航空スポーツの普及啓蒙	
（1）機関誌「方向舵」とホームページによる情報を発信	
① 機関誌「方向舵」を年間 2 回発行する。（139 号、140 号）	139 号、140 号発行
② グライダースポーツ手帳、ログブックを改訂発行する。	5 月発行、9月発行
③ 空域や航空法規など官公庁との調整結果を広報する。	随意メール等で広報
④ 気象、航空力学、滑翔技術などの関連技術情報、航空一般に関する知識や情報を提供する。（広報）	随意メール等で広報
⑤ 安全情報の公開および安全飛行の啓蒙を行う。	随意メール等で広報
⑥ 日本滑空記章、国際滑空記章の取得を勧奨する。	「方向舵」で勧奨
（2） 滑空場・周辺地区との交流活動	
① 滑空場地域のイベント等に参加する。	妻沼、白川地区に参加
② 市民講座、親子講座など航空に関する講習会を支援する。	妻沼
③ 地元市民向け搭乗会を地域法人と地元グライダークラブと連携し実施する。（白川、妻沼）	妻沼、白川
④ 滑空協会が開催する「スカイスポーツフェスタ 2014」について、開催滑空場（妻沼）、参加団体としての役割を果たす。（10 月）	SSF2014 に参加

（3） 生涯スポーツの支援 ① 生涯スポーツとしてグライダー継続するための支援体制を、下記の項目を中心に整備する。 ァ）賛助会員へグライダースポーツの最新情報、飛行機会情報などを提供及び紹介を行う。 イ）特定操縦技能審査を含め飛行や運航に関する助言を行う。	 JSAL 連絡ニュース配布 指導員講習会
（4） 国際交流 ① グライダースポーツ先進国ドイツの学生航空連盟組織と隔年相互に相手国を訪問し、人材交流を通して相互理解と知識や技術を深める。 ② 海外の国や機関との交流を検討し、学生が参加できる海外遠征、競技会情報を収集する。	 ドイツ側の理由で不調 継続収集
Ⅲ．公益業務遂行体制と関連業務 **1．経理担当** （1） 予算書・決算書(案)を作成する。 （2） 会計処理規程・旅費規程に基づく経理処理を行う。 （3） 保有資産の管理を行う。 （4） 職員の給与・社会保険業務を行う。 （5） 新橋事務所の庶務全般業務を行う。 （6） 消費税の改訂に対する対応を検討する。	 作成済 継続実施 継続実施 継続実施 継続実施 継続対応
2．総務担当 （1）事業計画書（案）を作成する。 （2）改選理事、教育管理部長等の人事案を作成する。 （3）諸規程の整備を継続的に実施する。（会員規程、安全管理規程等） （4）地区運営委員会と地区法人の役割と連携について検討する。 （5）ボランティアが業務執行に参画する体制を更に整備する。	 作成済 森理事の新任 監事監査規程、会員及び加盟団体規程、会計処理規程、特定費用準備金規程 継続検討 指定養成教官の交通費
（6）評議員会・理事会、その他会議の開催と参加 ① 評議員会（6 月）、理事会(6 月、11 月、3 月)の開催と関連業務を実施する。 ② 中央学生委員会(6 月)を開催する。 ③ 地区連絡会協議会（11 月）を開催する。	 予定月に開催 6 月、12 月に開催 理事会に合わせ開催

<table>
<tr><td>④ 地区運営委員会・地区法人とのミーティングを開催する。（3月、9 月を予定）
⑤ 地区連絡会の活動(学生委員会、地区運営委会、航空部長会等)に参加する。
⑥ その他の会議を主催する。</td><td>関東地区４月、２０１５年１月開催
継続的に参加

指定養成、事務局ミーティング等を継続開催</td></tr>
<tr><td>（7） 学生組織基盤の強化
① 各地区の学生委員会へ事務局が参加（年１回程度）し、学生の意見・希望等を直接聞く機会を設ける。
② 学生委員会の年間テーマとして加盟校会員数の増強を進める。
<table><tr><th></th><th>2010 年</th><th>2011 年</th><th>2012 年</th><th>2013 年</th><th>2014 年
目標</th></tr><tr><td>関　東</td><td>342</td><td>327</td><td>312</td><td>331</td><td>350</td></tr><tr><td>東　海</td><td>76</td><td>91</td><td>88</td><td>86</td><td>90</td></tr><tr><td>関　西</td><td>178</td><td>158</td><td>169</td><td>162</td><td>190</td></tr><tr><td>西　部</td><td>88</td><td>57</td><td>56</td><td>43</td><td>70</td></tr><tr><td>合　計</td><td>684</td><td>633</td><td>625</td><td>622</td><td>700</td></tr></table>
③ 部員数の少ない航空部を支援する。

④ 未加盟大学への加盟勧誘を行う。</td><td>関東、西部地区参加

<table><tr><th>2014 年
実績</th></tr><tr><td>390</td></tr><tr><td>131</td></tr><tr><td>189</td></tr><tr><td>54</td></tr><tr><td>764</td></tr></table>
方向舵、カレンダー無償配布
北海道、宇都宮大学へ継続勧誘</td></tr>
<tr><td>（8）関連官公庁への対応
① 内閣府、文部科学省、総務省への対応を行う。
② 国土交通省へ航空従事者指定養成制度改正、操縦練習許可書期間等、全般について対応を行う。
③ 埼玉県、岐阜県、大分県、熊本県、福井県、熊谷市、海津市、羽島市、愛西市、板井市、竹田市、熊本市等への対応を行う。</td><td>
継続実施
継続実施

継続実施</td></tr>
</table>

３．広報・渉外担当 （１） 協賛企業並びに賛助会員の増強 ① グライダースポーツ全般の広報活動として、新聞、書籍、テレビ、映画、その他メディアに積極的にアプローチする。 ② 個人賛助会員を 2014 年度は新規募集目標を 100 名とし、年度末200 名を達成する。 ③ 団体賛助会員又は協賛企業を年間 2 社を目標として募集する。 ④ 賛助会員に「方向舵」を配布し魅力ある情報を提供する。	 継続実施 未達 川崎重工業（株） 方向舵2号配布
（２） 連盟組織内広報 （コミュニケーション） ① 理事会、評議員会、地区連絡会協議会などの議事録を地区法人も含め、出来る限り公表してゆく。 ② 「JSAL連絡ニュースを年 4 回、四半期末に作成し、連盟の活動を広く連盟関係者、賛助会員、地区法人へ連絡する。 ③ 新入部員の多い大学の新入生勧誘活動を紹介する。(9 月) ④ 「 ホームページ」「方向舵」を積極的に活用する。	 継続実施（HP、メール） 継続配布 方向舵に紹介 継続活用
４．事業担当 （１） 競技会 ① 「スポーツ振興くじ」の補助制度を活用し、学連費用負担を下げる申請内容を検討する。 ② 海外競技会参加の可能性について検証する。	 継続検討 継続検討
（２） 加盟校会員、賛助会員にとって魅力ある学連への新規事業、施策を継続検討する。 ① 滑空協会が開催する「スカイスポーツフェスタ 2014」について、学連としての事業内容を企画する。 ② 学生を対象としたアンケートを実施する。	継続検討 10 月開催 中央学生委員会時実施
（３） 関連機材(グライダー、ウィンチ、その他)の整備・購入を検討する。	継続検討
（４） 講習会の開催 ① 会員を対象とした講習会/ワークショップ（空域、気象、ソアリング）を東京、大阪、他で実施する。 ② アドバンストトレーニングの実施を企画する。	 滑空協会講習会を紹介 4月実施計画作成
（５）滑空場・訓練所関係 ① 久住訓練所（久住町民センター）の道路拡幅工事に対応する。 ② 白川訓練所の宿舎問題を継続検討する。	 継続対応 継続検討

５. 教育管理担当 （１） 連盟内活動におけるハラスメント問題の対応 ① 「ハラスメント防止に関するガイドライン」の趣旨を周知する。 （２） 航空局への対応 ① 60 条、92 条等の申請を取りまとめる。 ② 滑空場訓練空域を調整する。 ③ その他航空局との折衝・情報交換等を行う。	 スポーツ手帳にて継続周知 東日本学生航空連盟と連携実施 随時実施
（３） 滑空場別諸統計を作成 ① 各地区活動実績の年間統計表を作成する。	 継続作成
（４） 無線局の管理 ① フライトサービスの管理と無線従事者の選解任を行う。 ② HF無線局の管理を行う	 継続実施 継続実施

以上

事業報告書の付属明細

資料１

訓練統計記録表(2014 年 1 月～12 月)

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>関東</th><th>東海</th><th>関西</th><th>西部</th><th>合 計</th></tr>
<tr><td colspan="2">加盟校数</td><td>24</td><td>9</td><td>15</td><td>11</td><td>59</td></tr>
<tr><td colspan="2">部員総数</td><td>390</td><td>131</td><td>189</td><td>54</td><td>764</td></tr>
<tr><td colspan="2">飛行回数</td><td>19,325</td><td>2,577</td><td>3,919</td><td>1,096</td><td>26,917</td></tr>
<tr><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td rowspan="5">技能証明
取得者</td><td>教育証明</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>6</td></tr>
<tr><td>事業用操縦士</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td>自家用操縦士</td><td>46</td><td colspan="2">17</td><td>0</td><td>63</td></tr>
<tr><td>二等整備士</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td>二等運航整備士</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr>
<tr><td colspan="2">計</td><td>51</td><td colspan="2">19</td><td>0</td><td>70</td></tr>
<tr><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td rowspan="4">各校所有機材</td><td>使用滑空機</td><td>69</td><td>13</td><td>24</td><td>10</td><td>116</td></tr>
<tr><td>ウインチ</td><td>6</td><td colspan="2">2</td><td>1</td><td>9</td></tr>
<tr><td>トレーラー</td><td>38</td><td colspan="2">19</td><td>7</td><td>64</td></tr>
<tr><td>無線機</td><td>134</td><td>24</td><td>32</td><td>22</td><td>212</td></tr>
</table>

事業報告書の付属明細

資料２

2014 年度訓練所の保守状況

訓練所	件　　名	金　　額	備　　　考
妻　沼	格納庫屋根塗装	2,694,000 円	保守
	女子風呂シャワー増設	82,000 円	女子部員の増加
	203 号室のエアコン交換	218,000 円	経年劣化
	汚水設備点検	81,000 円	
	2-B 号室のエアコン交換	226,000 円	経年劣化
木曽川	訓練所エアコン交換	181,500 円	経年劣化
	トイレ整備	55,000 円	
	（AED の設置）	200,000 円	安全対策
福　井	女子風呂ボイラー交換	130,000 円	経年劣化
	訓練所屋根塗装･外階段屋根設置	1,342,000 円	保守
	（少量危険物保管庫）	1,200,000 円	安全対策

以上